

久保彦助家のあゆみ①

久保彦助家は、橋立の最も有力な北前船主家の一つ、久保彦兵衛家の最初の分家で、屋号を「まえごもちや」「九一」（くいち）といいます。初代彦助は、久保本家の六兵衛の二男に生まれ、後に分家して久保彦助家を創設しました。彦助は、明和9（1772）年に没しており、分家した時期は宝暦年間頃と考えられています。

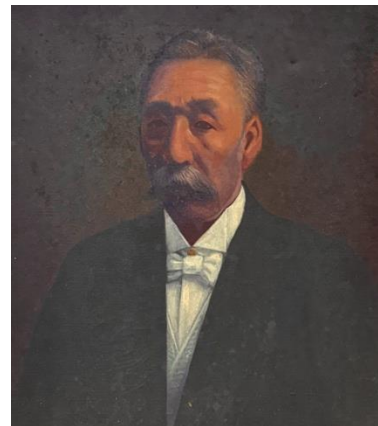
初代彦助の嫡男が2代目を継ぎ、3代目彦助は田野中家から養子に入り、文政4（1821）年に海難事故で亡くなっています。同家は、7代目まで北前船経営、海運業に従事し、大きな収益を得ていましたが、3代目と4代目彦助、6代目の3男は、海難事故で亡くなっており、北前船による航海が危険と隣り合わせであったことが伺えます。

5代目は、越前浜坂村の松下平左衛門の二男で、養子に迎えられました。妻は、後に北海道で北洋漁業を創業し、国会議員にもなった平出喜三郎の娘です。久保彦助家の最盛期は4代目から5代目、6代目の前半頃までであったと考えられています。4代目は、大聖寺藩に金子千両を献上して慶応元年に屋敷地を拝領し、十村格を仰せ付けられています。

8代目は、函館で新たな事業はじめ、砂糖や塩、ストーブなどの販売事業を行っています。久保本家は大阪に移りましたが、9代目幸彦は、橋立で暮らしていました。



旧久保彦助邸（明治11年築）



久保彦助

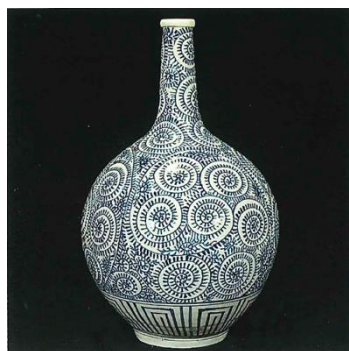
【参考文献】 『加賀ふるさと人物事典』（2018年）、『加賀市橋立の町並み』（2004年）

久保彦助家のあゆみ②

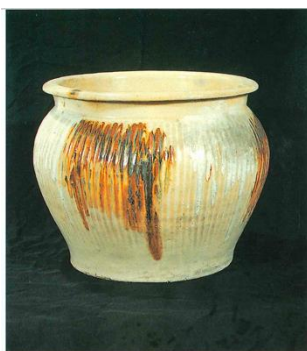
久保彦助家は、明治時代以降もさらに北前船経営を発展させていきました。明治4（1871）年には、3艘の和船で1,948円余り、明治5年には4艘で1,801円の収益を得ていますが、明治10年には4艘で13,378円、明治11年には7艘で30,330円余りと、収益が急激に増加していることがわかります。

その後、汽船の発達などにより、地域間の価格差を利用して大きな利益を上げる北前船経営の収益は次第に減少していきませんが、久保彦助家は、函館に店舗をかまえ、海産物の販売などを行いつつ、明治22年には5艘の和船を駆使して、北前船経営を展開していました。

同家には、北前船の経営資料や、全国各地の陶磁器類や蝦夷屏風などが多数あり、一部は北前船の里資料館に寄託されています。



伊万里焼
（北前船の里資料館寄託）



上野焼
（北前船の里資料館寄託）

「大正金満家明細一覽表」
久保彦助家は150万円（大正2・1913年）



函館焼
（北前船の里資料館寄託）



蝦夷屏風
（久保幸彦氏、牧野隆信氏、寄贈）



長福丸の帳簿
（明治5・1872年）

【参考文献】 『加賀ふるさと人物事典』（2018年）、『写真集 北前船の遺産』（2014年改訂）

旧久保彦助邸①

旧久保彦助邸は、明治5（1872）年10月7日の橋立大火で、前と斜め後ろの蔵を除いて焼失しました。明治6年に主屋の建築が始まり、同11年に完成しました。明治17年には後ろに土蔵が建てられており、主屋と後ろの茶室、土蔵と連続して建築されたと考えられます。

明治40年に、2階の座敷の造作がなされた後は、ほぼ増改築されておらず、建築当初のまま残っている貴重な北前船主邸です。



オエ（大広間）天井高は4.7m、柱は7寸5分（28.4cm）



ナカノマ（1階）
右側の床框は黒漆溜塗り



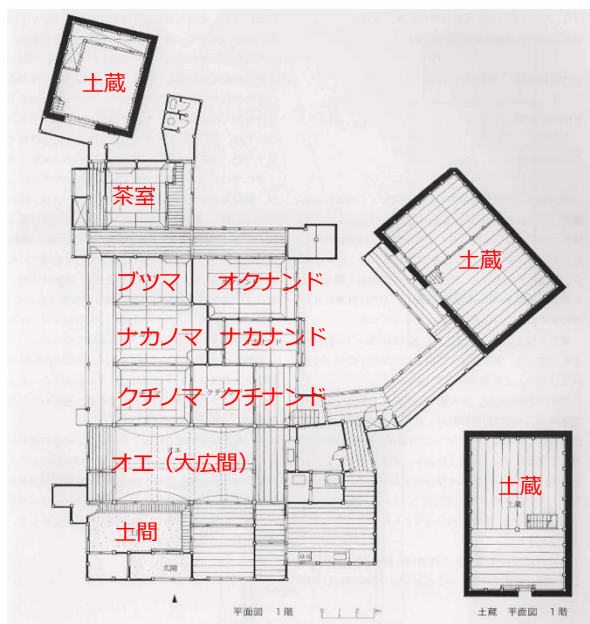
オクナンド（1階）
書院塗り枠は桂離宮新書院の写し。



茶室（1階）
床柱は皮付きの赤松。
床框は黒檀、書院板はケヤキ、違い棚・床板は松の1枚板。



仏間の襖絵（1階）
天保10（1839）年、
文英の作。



平面図（1階）



土間二フ



庭園
『写真集 北前船の遺産』
（1994年）より

【参考文献】『加賀市橋立の町並み』（2004年）

旧久保彦助邸②

旧久保彦助邸は、明治11（1878）年に完成しました。その後、明治17年には、後に土蔵が増築、明治40年には2階座敷の造作がなされました。

2階の座敷は3室あり、それぞれ「アオノマ」（群青と緑青の壁。金沢の兼六園成巽閣の写し）、「アカノマ」（朱壁）、「キノマ」（黄壁）と、それぞれ異なった色で塗られており、凝った造作となっています。



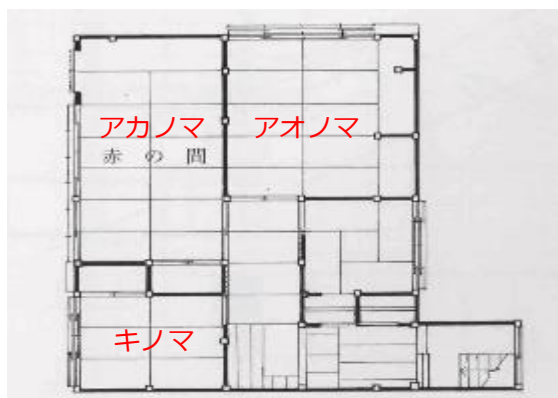
「アカノマ」（朱壁）



「アオノマ」（群青と緑青の壁）
金沢の兼六園成巽閣の写し



「キノマ」（黄壁）

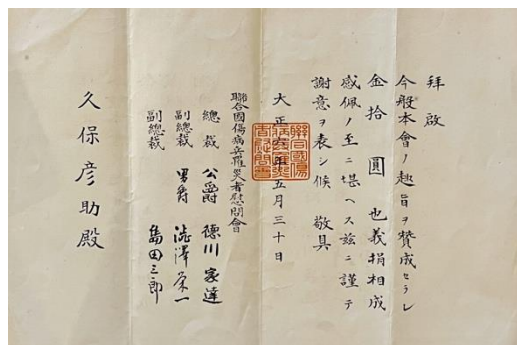


平面図（2階）

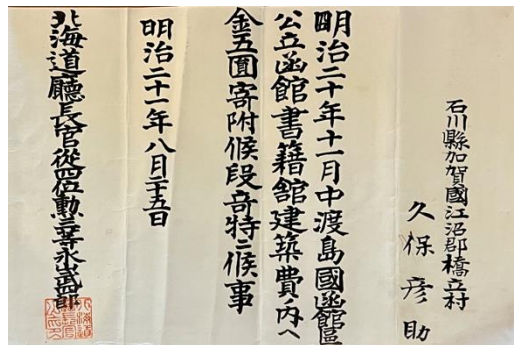
【参考文献】『加賀市橋立の町並み』（2004年）

久保彦助家の社会貢献①

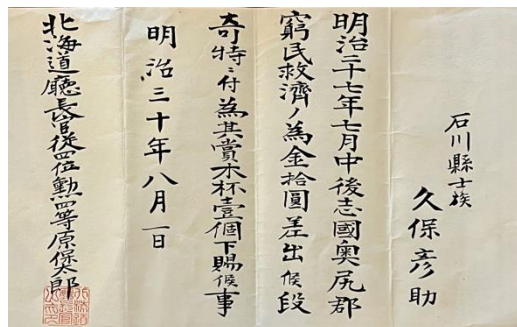
久保彦助家は、北前船経営などで得た大きな収益により、様々な社会貢献を行っていました。久保家資料には、寄付先から送られた感謝状等が多数含まれており、郷里の橋立をはじめ、石川県内、北海道など全国各地の様々な団体に寄付していたことが分かります。大正6（1917）年、傷病兵罹災者慰問会への義捐金に際しては、同会総裁の徳川家達、副総裁の渋沢栄一、島田三郎から感謝状を贈られています。



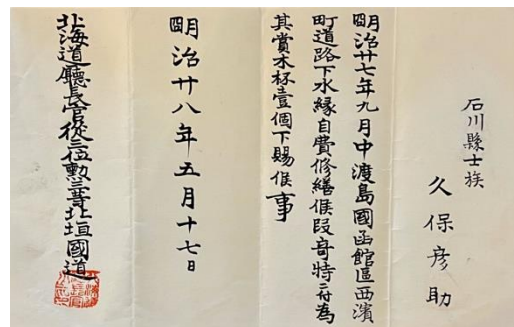
連合国傷病兵罹災者慰問会（大正6年）



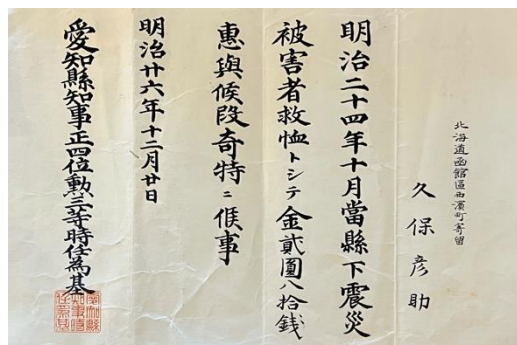
公立函館書籍館建築費（明治21年）



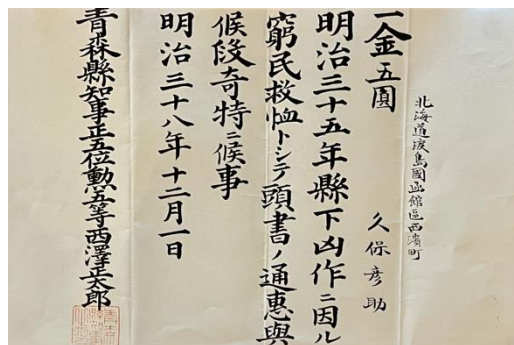
後志郡奥尻郡窮民救済寄付（明治30年）



函館区西浜町道路下水（明治28年）



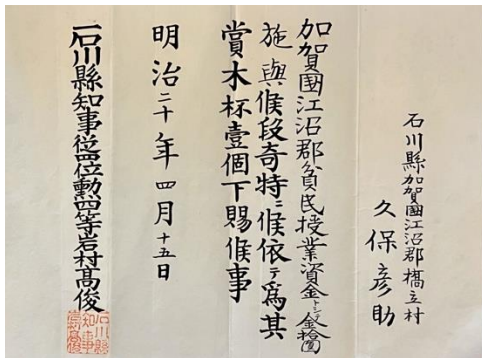
愛知県震災被害者救恤（明治26年）



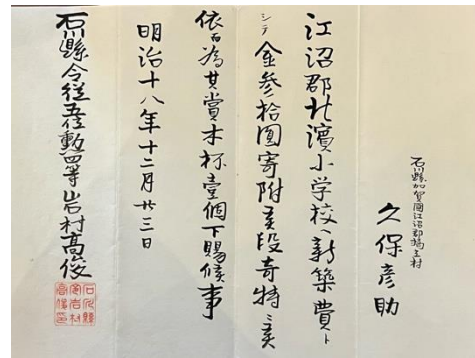
青森県下凶作による救民救恤（明治38年）

久保彦助家の社会貢献②

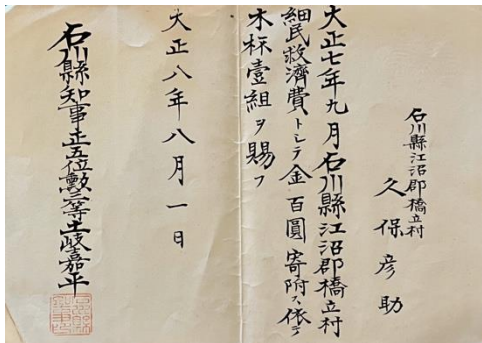
久保彦助家は、北前船経営などで得た大きな収益により、様々な社会貢献を行っていました。久保家資料には、寄付先から送られた感謝状等が多数含まれており、郷里の橋立をはじめ、江沼郡（現・石川県加賀市）内で様々な寄付をしています。橋立では、小学校の建設費、細民救済など、三谷村では火災の被災者に寄付しています。



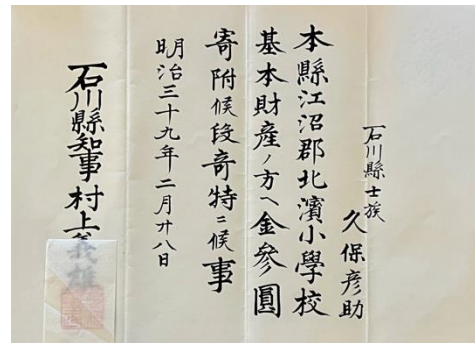
江沼郡貧民授業資金（明治20年）



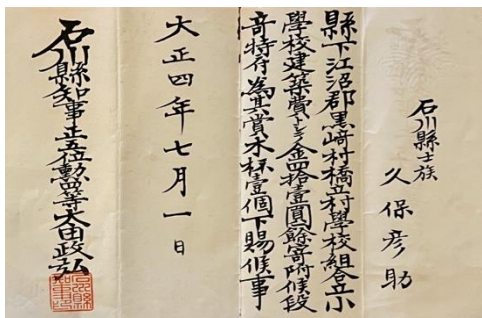
江沼郡北浜小学校新築費（明治18年）



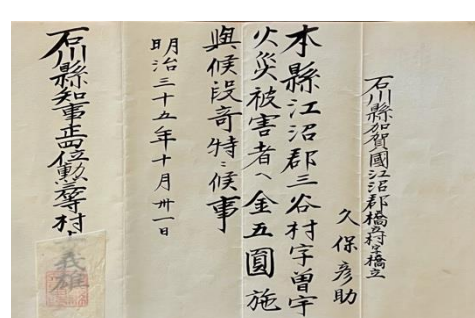
江沼郡橋立村細民救済費（大正8年）



江沼郡北浜小学校基本財産寄付（明治39年）



江沼郡黒崎村橋立村小学校建築費（大正4年）



江沼郡三谷村字曾宇火災被害者寄付（明治35年）